

市政への質問

三田の教育、三田の安心・安全

教育をとりまく環境が大きく変化している中で、三田の教育はどうあるべきか。また、犯罪など社会不安が増す今、三田の安全・安心をどう維持するのか。議員から質問がありました。

市の教育行政

全国学力・学習状況調査結果公表

問 望ましい教育をめざして、全国学力・学習状況調査の市全体の正答率を公表すべきと考えるが対応は。

答 三田市全体の正答率を公表し、教育に役立てる。学校ごとの正答率の公表は考えていないが、市全体の結果については、三田市学力向上推進委員会において分析し、指導のポイントを示した報告書を作成。各学校に配布する予定である。また、学力調査の結果と生活実態を分析した結果、生活・学習習慣が定着している児童・生徒ほど学力が高い傾向がみられた。望ましい教育を行うには、学校だけでなく家庭や地域の取組みが重要である。そのため、三田市全体の正答率を含めて、市民にできるだけわかりやすい公表を行う。

上野台中学校のバス定期補助

問 上野台中学校保護者へのバス通学定期代補助率は、現在75%以上になっている。また、保護者負担の上限を年額2万1600円に設定した結果、最も高い補助率は89%になっている。今後は、市の財政状況をみながら平成23年度を目標に保護者の通学定期代の一部負担を求めない方向で整理していく。

へのバス通学定期代補助を小学校と同じように100%補助にすべきと考えるがどうか。

答 23年度を目標に、保護者の一部負担を求めないようにしたい。

上野台中学校保護者へのバス通学定期代の補助率は、現在75%以上になっている。また、保護者負担の上限を年額2万1600円に設定した結果、最も高い補助率は89%になっている。今後は、市の財政状況をみながら平成23年度を目標に保護者の通学定期代の一部負担を求めない方向で整理していく。

芝生グラウンドでのびのび教育

問 学校などのグラウンドを低コストで芝生化できる鳥取方式を検討してはどうか。

答 モデル幼稚園を設定し、取り組む。

幼稚園のグラウンド芝生化は、子どもたちの屋外活動の活性化、情緒の安定、さらには快適性の向上また環境負荷を低減できるなどの効果が期待できる。本市においても、モデル幼稚園を設定し、グラウンド芝生化の事業コスト、維持管理の方法あるいは、学校や地域の協力が得られるのか、そして活用はどうか、様々な検証を行う。



積極的な法教育を

問 裁判員制度の導入に合わせて、教育現場に弁護士などを招いた法律学習や模擬裁判などの法教育を導入してはどうか。

答 法教育を積極的に進めるよう支援。

本年5月からスタートする裁判員制度は、法教育を進める良い機会である。中学校の社会科教師の担当者に、法廷見学や実際に裁判員制度や模擬裁判を取り入れた研究授業を参観するなど研修を重ねている。今後は研修を活かした授業づくりを進めていく。

富士中学校へのセンター校移設

問 特別支援学級センター校を八景中学校から富士中学校に移設する移設整備計画の進捗状況について伺いたい。

答 来年度の施設改修に向け準備。

特別支援学級センター校では、重度重複障害のある子どもも安全で安心して就学できるよう教育環境整備に努めている。具体的には「ともだち号」による送迎、エレベーターや多目的トイレ、また、センター校指導員や介助員の配置などがある。移設整備の進捗状況は、中学校関係者、小学校関係者による協議、整備方針の確認を行い、来年度の施設改修工事に向けた準備を進めている。

行財政改革

県の立替施行償還金

問 県企業庁の高利の立

替施行を繰上げ償還するための交渉状況はどうなっているのか。今後の見通しは。

答 知事に繰上げ償還を申し入れ。

数年前より県企業庁に対する立替施行の償還がピークを迎えている。繰上げ償還ができないか、知事に対して強く申し入れを行っている。

なお、県企業庁の立替施行の残高は、元金で約60億円、利子で約24億円の計84億円である。うち利子が5%以上の高利のものは元金が約50億円、利子が20億円と、約8割以上であり、低利で借り換えることができれば、将来の負担が軽減できる。また、市債の繰上償還や土地開発公社に対する債務軽減などについても取組みを進める。

労使交渉の情報公開

問 労使交渉内容の公表を職員組合に申し入れを行ったと聞いているが、現在の状況と今後の方針について伺いたい。

答 公表に向け協議を進める。

平成20年1月に交渉内容の公表について、職員団体に申し入れを行った。交渉の結果、公表していく方向で大卒の合意に達している。しかし、公表する内容の仕様や時期などの問題について協議が整っていない。

はじめようごみの減量

ごみの減量化や環境教育の観点から、ペットボトルのキャップの自主回収運動(エコキャップ運動)を市で取り組んではどうか。

答 公共施設での回収箱設置を検討。

ペットボトルのキャップ800個でワクチン一つが購入でき、市内でもエコキャップ運動に参加している市民団体、事業者がある。現在、市のごみ分別方法では、ペットボトルのキャップは、ペットボトルとは別に可燃ごみとしている。キャップがついたまま収集すると、市のリサイクルセンターで取り除く必要があるため、この運動が広く市民に広がれば、センターでの作業の省力化につながる。

今後は、市の公共施設などに回収箱の設置を行い、エコキャップ自主回収運動の紹介や呼びかけを検討したい。

鳥取方式の芝生化

サッカー場などで使われている成長の早い芝の苗を育苗ポットなどで約1カ月間育て、成長した苗の株を約50cm間隔で植え、自然繁殖させる方法です。高麗芝を敷き詰める従来の方式に比べて材料費が安価で、特別な土壌改良を必要としないため低コストで芝生化を行うことができ、また、専門業者でなくても地域や保育園などで取り組むことが可能です。

特別支援学級センター校

市立の特別支援学校を設置していない三田市独自の就学システム。重度重複の障害のある子どもが安全、安心して就学できるよう市内の小・中学校各1校をセンター校と位置づけ、教育環境の整備に努めています。

立替施行

ニュータウンの小・中学校などの施設は、ニュータウン開発者(県都市再生機構)が、その費用を立て替えて整備し、人口が定着したときに、その施設を市が買い戻します。これを立替施行といいます。その買戻しは本市の財政に大きな影響を与えています。が、都市再生機構分については繰上げ償還が認められています。

エコキャップ運動

NPO法人エコキャップ推進協会が推進している活動です。ペットボトルのキャップを分別回収し、再資源化を促進し、CO2の発生削減を図ります。同時にキャップの売却益でワクチンを購入し、世界の子どもの命を救うために活用することを目的としています。